

プログラム番号	07010
---------	-------

平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	長崎大学 医歯薬学総合研究科		
②学長名	齋藤 寛		
③所在地	〒852-8521 長崎県長崎市坂本1-12-4		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	研究国際部留学生課	
	担当者氏名	中尾 隆宏	e-mailアドレス t-nakao@nagasaki-u.ac.jp
	電話・FAX番号	電話 095-819-2124 FAX095-819-2125	
⑤ホームページ URL	http://www.nagasaki-u.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	122人(うち、国費留学生 66人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	熱帯医学修士・博士課程プログラム
②プログラムの形態	修士課程+博士課程(1+3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	医歯薬学総合研究科 熱帯医学専攻
	(所在地) 長崎県長崎市坂本1-12-4
⑤連携大学・研究科・専攻名	医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻
⑥受入れ学生数	16人(修士課程12名、博士課程4名) (うち研究留学生優先配置人数: 修士課程2人、博士課程1人) (うち日本人学生数: 4人)
⑦担当教員数	合計21人(うち専任: 15人、兼任: 6人、非常勤: 0人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 医歯薬学総合研究科・教授
	研究科長名 朝長 万左男

【3. プログラムの内容】

○ 開設の趣旨

20世紀後半から、人類は世界各地で新興・再興感染症の脅威にさらされているが、その多くは熱帯感染症で熱帯地域・発展途上国に集中している。また、経済活動が地球規模で行われてきている現代社会においては、エイズ、SARS、ウエストナイル熱などの例にみられるように、熱帯感染症は容易に国境を越え先進諸国においても重要性を増してきている。このような地球規模の問題解決に日本の大学が貢献できる最も効果的な手段として、熱帯医学に関する高度な知識と問題発見・解決能力を持つ専門職業人を養成すること、特に問題が集中している熱帯地域出身者にそのような人材を養成し、これらの地域との人的ネットワークの構築と共同の研究・対策活動を行うことが挙げられる。

長崎大学は、熱帯医学研究所を中心として、熱帯感染症を対象とした基礎研究、フィールド研究、熱帯地での感染症対策活動において実績がある。また、人材育成においても過去20年間に150名以上の熱帯医学研究者を輩出し、その75%が熱帯諸国出身者である。このような実績をもとに長崎大学は、平成18年4月に我が国で初めての熱帯感染症に特化した熱帯医学専攻科（熱帯医学修士課程）を設置し、熱帯病についてその基礎から応用に至る系統的な知識や技術を授け、熱帯医学の臨床に直結する知識と問題発見・解決能力を持つ高度専門職業人の養成を図っている。

○ 内容および特色

修士課程における授業科目は、特論20単位、演習8単位、実習2単位からなり、この他熱帯医学の各分野にそった研究立案を行い、課題研究論文を作成する。本プログラムでは、修士課程修了者から博士課程進学適任者を厳選し、さらに3年間の高度専門教育を課す。最新のプログラムはホームページ<<http://nile.tm.nagasaki-u.ac.jp/mtm/>>に掲載されているので参照されたい。

特論20単位は、熱帯医学特論と熱帯公衆衛生学特論の2科目に分かれている。熱帯医学特論は臨床熱帯感染症学を中心に、全身性発熱疾患、中枢神経系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、肝・胆道系疾患、リンパ組織系疾患など症候別に講義が編成され、ぜん虫学、原虫学、細菌学、ウイルス学分野のそれぞれの担当教官が症候別に関連する熱帯感染症を概説する。また、臨床担当教官が熱帯病臨床症例を用いたPBL形式の演習を実施する。熱帯公衆衛生学特論は、狭い意味での公衆衛生学ではなく、疫学、生物統計学や病害動物学などの広範な分野にわかる学問を再構築し熱帯臨床医学の場で行かせるような講義と演習を提供する。実習は、各種病原体の同定実験を実施するとともに、海外熱帯医学臨床実習では、前半2週間をバンコクの国立衛生研究所をベースに現地の研究や診療現場の視察、熱帯病症例演習、アウトブレイク調査演習、後半2週間はタイチェンマイ大学医学部関連病院、ベトナムホーチミン市のチョーライ病院、フィリピンマニラ市のサンラザロ病院にて実際に患者を診療しケースレポートを作成する。

博士課程（新興感染症病態制御学系専攻熱帯感染症学）では、病原細菌学、病原原虫学、熱帯ウイルス学、熱帯寄生虫学、感染病理学、感染生化学、分子免疫遺伝学、臨床熱帯医学、社会環境学、熱帯医学情報学、生物環境学の分野から、その研究分野に応じて、この中から主科目を16単位、また医歯薬学総合研究科が開講するすべての専門科目から副科目として8単位を選択する。共通科目として熱帯医学・国際保健1単位を選択する。

○ 教育・指導体制（論文指導等サポート体制）

本専攻は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所の教員21名で組織する。熱帯医学特論および熱帯医学演習については、ウイルス疾患、細菌疾患、原虫疾患、ぜん虫疾患および臨床、免疫、生化学に十分な研究業績を有する大学院医歯薬学総合研究科及び熱帯医学研究所の教員を充て、また熱帯公衆衛生学特論についても、疫学、生物統計学、昆虫学、病害動物学に十分な研究業績を有する熱帯医学研究所の教員を充てる。なお、海外熱帯医学臨床実習については、熱帯医学の臨床に十分な経験を有する熱帯医学研究所の教員を充てる。

○ 使用言語 英語を用いる

○ 募集方法、募集対象国、学内選考方法等

1. 受け入れ対象学生

国費と私費留学生としてそれぞれ2名と10名ずつ募集する。JICA留学生は私費の枠内とする。応募資格は、1) 医学士・医師免許を取得し、2年以上の臨床経験を有する医師あるいはそれに相当する能力を有する者、2) 熱帯病や新興感染症およびその対策に強い関心を持ち、将来、熱帯地での医療や医学研究に携わるなど、明確な目的意識を有するもの、3) 英語での教育・実習に必要な英語能力を有するものであり、その他の要件として日本政府奨学金受給外国人留学生の資格に準ずる。

2. 専攻分野 熱帯医学専攻のみ

3. 募集対象国

アジア・アフリカ諸国の主要大学、学術交流協定締結校を中心に募集する。特に長崎大学が海外拠点を持つベトナム・ケニアは重点対象国である。

4. 学内選考方法

本研究科熱帯医学専攻会構成委員による特別プログラム選考委員会を設置し、選考にあたる。選考委員は当該国において面接試験あるいは、インターネット等による口頭試験を行う。提出された書類（入学申請書、推薦書、成績証明書、臨床経験証明書、その他本学が指定した書類）に基づいて厳正に選考を行う。

○ 終了後に想定される進路、修了者に期待できる効果およびフォローアップ体制

本プログラム修了後に想定される進路としては、1) 博士課程へ進学する、2) 出身国の大学もしくは研究機関へ復職または就職し、現地の研究や保健医療現場でのリーダーとして活躍する、3) WHO, ユニセフなどの国際政府援助機関へ就職する、4) 保健医療関係のNGOでリーダー的役割を果たす、等がある。

修了者は、熱帯地での感染症対策や研究活動により大きな貢献が出来る。また、現地のリーダー的人材との強固な人的ネットワークが構築され、長崎大学の今後の海外での研究・対策活動の発展にも繋がる事が期待できる。特に修了者が長崎大学の海外拠点出身者である場合は、現地の長崎大学拠点がフォローアップ体制として機能する。

○ 本プログラムの点検・評価の体制

原則としてすべての講義は電子媒体に収録され、また、すべての講義に対して留学生の評価が集計される。これらはプログラムの自己評価と改善に活用される。